

大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 東京工業大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

【事業の概要】

本学は「世界最高の理工系総合大学の実現」を長期的目標としている。このためには、世界の最高水準の理工系大学との連携協力が不可欠であり、平成23年度から5年間、大学の世界展開力強化事業「日中韓先進科学技術大学教育環(TKTキャンパスアジア)」を通じて、東アジアの最高水準の理工系大学である中国の清華大学、韓国の韓国科学技術院(KAIST)との間で人材の育成を目的とした教育研究プログラムを実施してきた。本事業は、それらの経験と実績に基づき、下記の人材像を養成するために、以下の3点を目的として、より高度化したプログラムへと展開する。

- 1) 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化
- 2) ダブルディグリーへの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化
- 3) 日中韓からアジアの先進科学技術系「21世紀型スキル」教育の強化

【交流プログラムの概要】

○ 本学への参加学生の受入れ、相手大学への本学学生の派遣

「授業中心型教育」であるサマープログラム及び「研究重視型教育」の交流プログラムに参加する学生について、清華大学およびKAISTから推薦を受け、受入れを行う。また、清華大学・KAISTへ派遣学生を学内公募を通して選考し、派遣を行う。

○ 共同研究指導体制による「研究重視型教育」の強化

学部生を対象とした専門に応じて基礎から最先端までを修得する「授業中心型教育」と大学院生(又は学部4年生以上)を対象とした「研究重視型教育」の交流プログラムを強化する。

○ ダブルディグリーへの拡充とジョイントディグリーに向けたプログラムの強化

KAISTと本学との間で機械工学の分野においてダブルディグリーを締結したが、さらに物質系、生命系、情報系など、より幅広い分野でのダブルディグリーへと拡充する。

○ 「21世紀型スキル」教育の強化

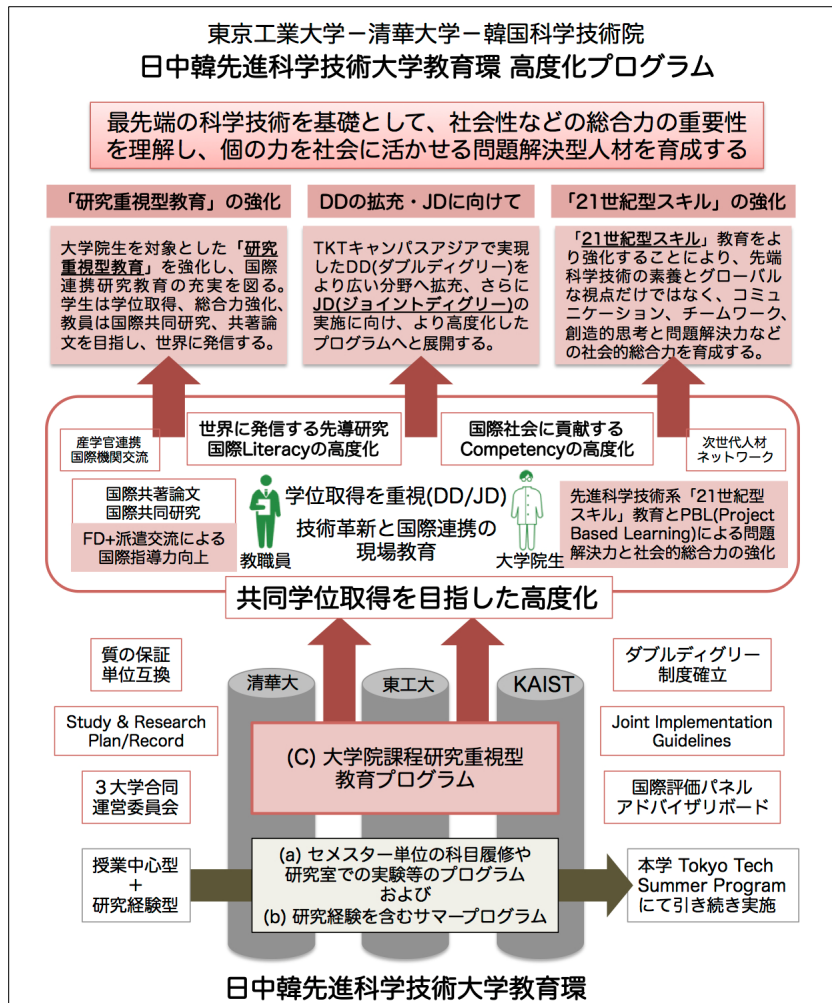
最先端の科学技術を基礎として、コミュニケーション力、チームワーク力、創造的思考と問題解決力などを兼ね備え、個の力を社会に活かせる問題解決力と社会的総合力を身につけた人材を育成するため、「21世紀型スキル」教育を強化する。

【本事業で養成する人材像】

卓越した最先端科学技術の素養とグローバルな視点を持つだけでなく、アジアや世界を問題解決型の科学技術で結び、社会に貢献するトップリーダーに向けたキャリアパスを自ら展開出来る人材を育成する。

【本事業の特徴】

上記「研究重視型教育」「共同学位」「21世紀型スキル」の強化のために、3大学の担当教職員ならびに各研究分野の代表教職員を選定し、事務レベルの合同運営委員会から、教育実施レベルの直接会合などを実施し、全学レベルでの質の保証を伴う連携教育互換モデルの提唱を進めている。それらの連携体制を3カ国の他大学、さらにはアジアの科学技術を先導する人材育成に資する共同研究教育へと展開することを目指している。



【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 2 K 3	C 5 K 5	C 5 K 5	C 5 K 5	C 5 K 5
中国(C)での受入	J 3 K 3	J 5 K 5	J 5 K 5	J 5 K 5	J 5 K 5
韓国(K)での受入	J 2 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5	J 5 C 5

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東京工業大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))
日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈21世紀型スキルセミナー〉

平成28年度は、計画内容に基づき、順調にプログラムを実施することができた。「研究重視型教育」の強化については、「修学計画書」に基づき、派遣先・派遣元の両教員が学生が取り組む修学計画を理解し、共通認識を持って指導にあたることで、短期間でも学生にとって有意義な時間となった。また、三大学合同運営委員会を開催し、ダブルディグリーの分野拡充を模索し、3月にはKAIST-東工大間で各分野ごとにより具体的な可能性について協議を行った。さらに、「21世紀型スキル」教育の講義の実施により、学生が科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとすることができた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成28年度は、KAISTサマースクールに3名、KAIST秋学期プログラムに1名、KAISTウィンタープログラムに2名を派遣した(内1名は、29年6月まで留学中)。

○ 外国人留学生の受入

平成28年度は、「研究重視型教育」で清華大学から5名、KAISTから5名、計10名の受入を行った。5名の受入枠で募集を行ったところ、清華大学から30名、KAISTから13名の応募があったため、枠を10名に広げて受入を行った。

	H28
日本(J)での受入	C 5 K 5
中国(C)での受入	J 0 K 3
韓国(K)での受入	J 6 C 14

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証を伴う共同教育指導体制から、アジアの科学技術を先導する共同研究につながる「研究重視型教育」への拡充

平成28年度は、KAISTから、共同指導と共同学位を進めたい研究分野と教員のリストが提示され、それをもとに、東工大から教員7名と学生7名がKAISTを訪問し、各分野毎の研究ディスカッションと共同教育講義体験を実施した。

○ 他大学の学生の参加

28年度は三大学からのみの参加となったが、29年度のサマープログラムでは、三大学以外の学生も交えた「授業中心型教育」を開催する。

○ ファカルティデベロップメント(FD)の強化、ならびに国際公募による国際連携を推進する教員の強化

留学生対応業務に従事する事務職員対象の語学研修を「英語コミュニケーションスキルアップセミナー」を実施した。29年度はさらにFDの強化をすすめる。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ 外国人学生の受入のための環境整備

来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めた。滞日中は、専門に近い本学学生をチューターに指名し、専任のプログラムコーディネーターによる助言を行った。「21世紀型スキルセミナー」を開催し、コミュニケーションスキルの重要性を伝えるとともに、本学学生との交流ができる機会を設けた。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、「21世紀型スキルセミナー」を(使用言語:英語)した。また派遣留学経験者による留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、専任のプログラムコーディネーターが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ 大学の国際化の状況

全学生に占める大学の留学生比率は12%となっている。また、教育改革による新体制(28年4月～)がスタートし、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制の整備を進めている。

○ 情報の公開・成果の普及

キャンパスアジア採択大学の取り組みを網羅したウェブサイトのリニューアルを行い、関係教員情報や、本事業のみならず他の採択プログラムの情報を学内外へ発信する準備を進めた(公開準備中)。

■ ゲッドプラクティス等

○ KAISTと本学との間でダブルディグリーを締結した機械工学の分野では、共同研究に興味を持つ東工大生と連携を推進する教員を、またさらに物質系、生命系、情報系などの分野から共同指導を担当する教員らを短期派遣し、研究及び授業を実施する現場でのディスカッションを実施した。

○ 最先端の科学技術を基礎として、社会性などの総合力を教育する「21世紀型スキルセミナー」を3回開催し、学生のみならず、教職員にも理解を促す体制を整えた。

○ 韓国KAISTにて3大学の担当教員が集まり、合同運営委員会を実施した。



〈 受入学生と派遣学生の交流 〉

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))
日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈21世紀型スキルセミナー〉

平成29年度は、11名を派遣し、20人を受け入れた。計画内容に基づき、順調にプログラムを実施することができた。「研究重視型教育」の強化については、「修学計画書」に基づき、派遣先・派遣元の両教員が学生が取り組む修学計画を理解し、共通認識を持って指導にあたった。

三大学合同運営委員会を年度内で3度開催、それに加え、経営工学系、生命系において教員および学生交流の推進、また、ダブルディグリーの分野拡充について協議を行った。

「21世紀型スキル」教育の講義の実施により、学生が科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとすることができた。また、今年度は教職員向けの特別講義も実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成29年度は、KAISTに9名、清華大学に2名の計11名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

平成29年度は清華大学から8名、KAISTから12名、計20名の受入を行った。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 質の保証を伴う共同教育指導体制から、アジアの科学技術を先導する共同研究につながる「研究重視型教育」への拡充

平成29年度は、KAISTより経営工学を専門とする教員を招聘し、共同指導と学生交流の可能性について議論を行った。また、本学の生命系の教員がKAISTを訪問し、さらなる協働体制についてディスカッションした。

○ 他大学の学生の参加

29年度は、サマープログラムにおいて、三大学以外の学生も交えた「授業中心型教育」を開催し、一緒に授業を受講したり、文化交流アクティビティーに参加したりした。

○ ファカルティデベロップメント(FD)の強化、ならびに国際公募による国際連携を推進する教員の強化

留学生対応業務に従事する事務職員対象の語学研修を「英語コミュニケーションスキルアップセミナー」を実施した。また、「グローバルコンピテンスワークショップ」を清華大学にて開催、三大学の教職員が参加し、清華大学が全学をあげて取り組む21世紀型スキル教育について学んだ。

	H29
日本(J)での受入	C 8 K 12
中国(C)での受入	J 2 K 9
韓国(K)での受入	J 9 C 28

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ 外国人学生の受入のための環境整備

来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めた。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、専任のプログラムコーディネーターによる助言を行った。「21世紀型スキルセミナー」を開催し、コミュニケーションスキルの重要性を伝えるとともに、本学学生との交流ができる機会を設けた。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、「21世紀型スキルセミナー」を(使用言語:英語)した。また派遣留学経験者による留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、専任のプログラムコーディネーターが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ 大学の国際化の状況

教育改革による新体制のもと、国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制の整備を進めている。

○ 情報の公開・成果の普及

キャンパスアジア採択大学の取り組みを網羅したウェブサイトのリニューアルを行い、関係教員の情報などを学内外へ発信している。

■ グッドプラクティス等

- 最先端の科学技術を基礎として、社会性などの総合力を教育する「21世紀型スキルセミナー」を3回企画し(内1回は清華大学での開催)、学生のみならず、教職員にもコミュニケーションスキルの重要性について理解を促す機会となった。
- 本学、清華大学、KAISTにて3大学の担当教職員が集まり、年度内で3回の合同運営委員会を実施した。



〈 受入学生と派遣学生の交流 〉

3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東京工業大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))
日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈サマースクール 箱根研修旅行〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成30年度は、KAISTに9名、清華大学に1名、韓国超短期派遣プログラムで6名の計16名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

平成30年度は清華大学から10名、KAISTから12名、計22名の受入を行った。また、サマースクールでは、連携大学以外から14名を受け入れた。

・交流学生数：派遣 16名、受入22名(その他、連携大学以外から14名受入)
・計画内容に基づき、順調にプログラムを実施することができた。「研究重視型教育」の強化については、「修学計画書」に基づき、派遣先・派遣元の両教員が学生が取り組む修学計画を理解し、共通認識を持って指導にあたった。

・サマースクールでは、初めての試みとして、連携大学である清華大学とKAIST以外からの学生を受け入れて実施した。

・学生が科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとして、「21世紀型スキル」教育の講義を実施した。

	H30
日本(J)での受入	C 12 K 10
中国(C)での受入	J 1 K 5
韓国(K)での受入	J 15 C 20



〈サマースクール 成果発表会〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ サマースクールでは、初めての試みとして、連携大学である清華大学とKAIST以外に、香港科技大や南洋理工大をはじめとするその他アジアおよび欧米大学の学生も応募ができるようにし、他大学の学生の参加を可能とすると同時に、本コンソーシアムの学生がさらに国際的な環境で教育プログラムに参加できる体制を整えた。

○ 科目履修をした学生には成績通知書を発行した。また、プログラム修了要件を満たした学生にはプログラム修了証を発行した。本プログラムの受入学生は、これらの書類により派遣元大学において単位の認定や単位以外の形での業績の認定(学位取得に必要な要件の一部にすることなど)ができるようなシステムとなっている。

○ 双方の大学の教員が共同で指導するための「修学・研究計画書/報告書(Study and Research Plan/Record)」を使い、参加学生は授業履修・研究実施について双方の教員の指導のもと立案し、それに従い研究を行い、修了後はその成果を確認できるようにしている。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ 外国人学生の受入のための環境整備

来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めた。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、専任のプログラムコーディネーターによる助言を行った。「21世紀型スキルセミナー」を開催し、コミュニケーションスキルの重要性を伝えるとともに、本学学生との交流ができる機会を設けた。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、「21世紀型スキルセミナー」を(使用言語:英語)した。また派遣留学経験者による留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、専任のプログラムコーディネーターが、メール等により修学・生活上の相談に対応した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ 大学の国際化の状況

国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制の整備を進めている。

○ 情報の公開・成果の普及

プログラムHPでは、新たに参加学生のブログをコンテンツに加え、事業の取組を発信するとともに、参加学生の生の声を通して留学の様子を伝えている。

■ ゲッドプラクティス等

受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との交流会を開催し、自由に意見交換が出来る場を設けた。これにより、受入学生・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれ、友好を深める機会となった。特に、これから留学する本学学生にとっては、事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。



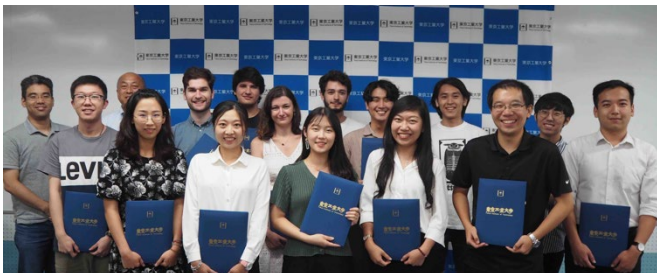
〈ウィンタープログラム ランチ交流会〉

4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【東京工業大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))
日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈サマースクール 成果発表会〉

- ・交流学生数: 派遣 6名、受入16名 (その他、連携大学以外から6名受入)
- ・計画内容に基づき、順調にプログラムを実施することができた。「研究重視型教育」の強化については、「修学計画書」に基づき、派遣先・派遣元の両教員が学生が取り組む修学計画を理解し、共通認識を持って指導にあたった。
- ・サマースクールでは、昨年度に引き続き、連携大学である清華大学とKAIST以外からの学生を受け入れて実施した。
- ・学生が科学技術の知識のみならずコミュニケーションスキルの重要性を理解するきっかけとして、「21世紀型スキル」教育の講義を実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

令和元年度は、KAISTに4名、清華大学に2名の計6名を派遣した。令和2年3月に派遣予定だった4名は、新型コロナウイルスの影響により派遣が延期となった。

○ 外国人留学生の受入

令和元年度は清華大学から8名、KAISTから8名(ダブルディグリー生1名含む)、計16名の受入を行った。また、サマースクールでは、連携大学以外からも6名を受け入れた。

	R1
日本(J)での受入	C 8 K 8
中国(C)での受入	J 2 K 7
韓国(K)での受入	J 4 C 15



〈「日中韓大学間交流・連携推進会議」委員
本学訪問時: 参加学生によるプレゼン〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ サマースクールでは、昨年度に続き、連携大学である清華大学とKAIST以外に、香港科技大をはじめとするその他アジアおよび欧米大学の学生も応募ができるようにし、他大学の学生の参加を可能とすると同時に、本コンソーシアムの学生がさらに国際的な環境で教育プログラムに参加できる体制を整えた。

○ 科目履修をした学生には成績通知書を発行した。また、プログラム修了要件を満たした学生にはプログラム修了証を発行した。本プログラムの受入学生は、これらの書類により派遣元大学において単位の認定や単位以外の形での業績の認定(学位取得に必要な要件の一部にすることなど)ができるようなシステムとなっている。

○ 双方の大学の教員が共同で指導するための「修学・研究計画書/報告書(Study and Research Plan/Record)」を使い、参加学生は授業履修・研究実施について双方の教員の指導のもと立案し、それに従い研究を行い、修了後はその成果を確認できるようにしている。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ 外国人学生の受入のための環境整備

来日前から学生と緊密な連絡を取り円滑な受入れを進めた。滞日中は、専門の近い本学学生をチューターに指名し、専任のプログラムコーディネーターによる助言を行った。「21世紀型スキルセミナー」を開催し、コミュニケーションスキルの重要性を伝えるとともに、本学学生との交流ができる機会を設けた。

○ 日本人学生の派遣のための環境整備

留学を志望する学生の語学力の向上をはかるため、「21世紀型スキルセミナー」を実施した。また、派遣留学経験者による留学先での修学などについての助言を行った。留学中は、専任のプログラムコーディネーターがメール等により修学・生活上の相談に対応した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ 大学の国際化の状況

国際水準での単位互換、教育内容の国際的チューニングを向上させる体制の整備を進めている。

○ 情報の公開・成果の普及

プログラムHPでは、募集要項や活動内容をはじめ、学生ブログや体験談で留学の様子を伝えている。また、CAMPUS Asia 採択校HPを立ち上げ、事業全体の取組を発信している。

■ ゴッドプラクティス等

受入学生滞在中に、派遣予定学生および派遣経験学生との研修旅行を実施した。これにより、受入・派遣学生双方に「キャンパス・アジア生」というチーム意識が生まれ、友好を深める良い機会となった。特に、これから留学する本学学生にとっては事前に受入大学の学生と情報交換が出来る貴重な機会となった。



〈サマースクール 鎌倉研修旅行〉

5. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【東京工業大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

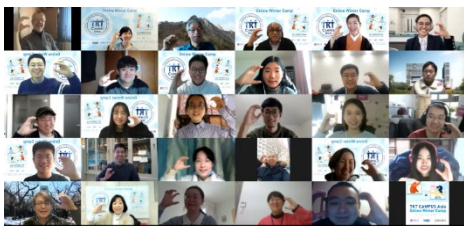
■ 交流プログラムの実施状況

三大学合同オンラインプログラムの実施

令和2年度は新型コロナの影響を受け、実渡航を伴う受入・派遣はすべて中止となった。そのため、日中韓三大学で協同し、三大学の学生が参加できるオンラインキャンプとシンポジウムを企画、実施した。キャンプでは、講義、文化体験、現地バーチャルツアー、三大学混合のチームプロジェクトで構成され、参加学生は、国籍、学年、専門分野が異なる学生との議論・発表・交流を通して、互いの理解や知見を深めた。シンポジウムでは、自分の研究について非専門家にわかりやすく伝えることを通して、社会に出た際に必要となるコミュニケーション力やプレゼンテーション力を向上させた。

三大学合同オンライン同窓会の開催

キャンパス・アジア参加学生を対象に、三大学合同オンライン同窓会を開催した。参加学生は、プログラムでの経験を共有し、同窓生同士のネットワークを築いた。



TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 本学学生の派遣

令和2年度は、本学からは16名の学生が交流プログラム(オンライン)に参加した。

- ・TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp (8月・三大学合同) 8名
- ・TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp (1月・三大学合同) 3名
- ・TKT CAMPUS Asia Online Research Symposium(12月) 1名
- ・Tsinghua Global Summer School (7月) 3名
- ・Tsinghua Fall Semester Program (9月~1月) 1名

参加学生は、清華大学の正規授業の受講を通して専門分野への新しい知見を得たり、チームプロジェクト等の国際協同活動を通して互いの理解を深めたりした。

○ 外国人留学生の受入

令和2年度は、連携大学から32名(清華大学20名、KAIST12名)の学生が交流プログラム(オンライン)に参加した。

- ・TKT CAMPUS Asia Online Summer Camp (8月・三大学合同) 17名(清華大学11名、KAIST6名)
- ・TKT CAMPUS Asia Online Winter Camp (1月・三大学合) 15名(清華大学9名、KAIST6名)

「コロナ禍で留学を諦めていた中、他大学の学生と交流できる留学プログラムに参加できて良かった」という声が多く聞かれた。

	R2
日本(J)での受入	C 20 K 12
中国(C)での受入	J 15 K 15
韓国(K)での受入	J 12 C 28

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ コロナ禍での学生交流について十分な検討・意見交換するため、オンラインによる三大学ミーティングを複数回行った。特に三大学合同で実施したSummer / Winter Campの内容は、三大学が企画段階から関わり、ともに検討し、各大学が特別講義を用意するなど三大学の学生それぞれが多様な経験ができる機会となるように構成した。

○ Summer / Winter Camp / Research Symposiumでは、プログラムを修了した学生にプログラム修了証が授与された。また、Tsinghua Global Summer SchoolとTsinghua Fall Semester Programに参加した学生には、履修した内容に応じて清華大学より単位が発行された。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○ オンラインプログラム実施前に、参加メンバーとのプレミーティングの機会を設け、ネットワーク状況の確認、参加者の顔合わせ、概要説明等を行った。これにより、初めての実施形態での参加となる学生の不安を軽減した。

○ Summer / Winter Campでは、チームプロジェクトでのチーム編成のほか、異文化体験は別のチーム編成で行うことで、参加学生が様々な学生と交流ができるようにした。

○ Winter Campと同日に、これまでの参加学生にも声掛けをし、オンライン同窓会を実施した。Camp参加学生と過去のプログラム参加学生が交流し、ネットワークを広げる機会となった。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況／情報の公開、成果の普及

○ 大学の国際化の状況

クォーター制学事暦を導入し、学生の就職活動や論文執筆への影響を抑えながら留学等に参加しやすい環境が整備されている。

○ 情報の公開・成果の普及

プログラムHPで募集要項や活動内容を随時発信するとともに、年度末には第2期の活動をまとめた事業報告書を作成した。また、CAMPUS Asia 採択校HPを立ち上げ、CAMPUS Asia紹介動画を公開するなど、事業全体の取組を発信した。



CAMPUS Asia 採択校ウェブサイト

■ グッドプラクティス等

○ 三大学合同企画でのSummer Camp / Winter Camp 同窓会の開催

日中韓三大学がコロナ禍で出来る交流プログラムをともに考案し、三大学の参加学生それぞれが多様な経験ができるよう構成した。また、オンライン同窓会を三大学で企画し、これまでのプログラム参加学生がネットワークを広げられる場とした。